

令和3年度教育課程研究集会 中学校 音楽

奈良県教育委員会事務局学校教育課
義務教育係 指導主事 辰巳真弓

音や音楽

=

終了すると音響として存在しなくなる

視聴覚機器の活用



ICT機器の活用

- 様々な感覚を結びつけて理解を深める
- 主体的に学習に取り組む

ICTの活用についての学習指導要領における主な記述

中学校学習指導要領（平成29年告示）

第2章 各教科 第5節 音楽 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

エ 生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。

カ 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する知的財産権について触れるようにすること。 また、こうした態度の形成が、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。

ICTの活用についての学習指導要領における主な記述

中学校学習指導要領（平成29年告示）

第2章 各教科 第5節 音楽 第1 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

学びに向かう力、人間性等

実践発表について

・バーチャル楽器の活用

第2学年及び第3学年 A表現(3) 創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(ア)音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

(7) 各学年の「A表現」の(3)の創作の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らない

ようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。

・撮影機能の活用

・ファイル共有機能の活用

中学校音楽科におけるICT活用の利点

- 聴覚だけでなく、視覚などの他の感覚を働かせて音や音楽を捉えながら、音楽表現を創意工夫したり、音楽を聴き深めたりすることができる。
- 創作の学習において、つくった音楽を記録したり、実際の音で表したりすることが容易にでき、創作表現を創意工夫する活動に集中することができる。
- 自分たちの演奏や作品を録音や録画で残すなど学習履歴を蓄積し、学習の振り返りや学習成果の確認に生かすことができる。

中学校音楽科におけるICT活用の例

表現

- ・自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、表したい音楽表現への見通しをもったり、技能の習得過程を確認したりする。
- ・音を可視化するソフトを活用して、音高や音量、アーティキュレーションなどを確認し、表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・インターネットを活用して、曲の背景などについての知識を得ながら、歌唱・器楽で表現するための思いや意図（表現意図）を深める。
- ・音楽制作ソフトなどを活用して、音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり、音色を様々に変化させながら、表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・つくった音楽を再生して音で確認しながら、創作表現を創意工夫したり、ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら、つくった作品を修正したり、さらに工夫を重ねたりする。

歌唱・器楽

創作

中学校音楽科におけるICT活用の例

表現

- ・自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、表したい音楽表現への見通しをもったり、技能の習得過程を確認したりする。
- ・音を可視化するソフトを活用して、音高や音量、アーティキュレーションなどを確認し、表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・インターネットを活用して、曲の背景などについての知識を得ながら、歌唱・器楽で表現するための思いや意図（表現意図）を深める。
- ・音楽制作ソフトなどを活用して、音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり、音色を様々に変化させながら、表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・つくった音楽を再生して音で確認しながら、創作表現を創意工夫したり、ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら、つくった作品を修正したり、さらに工夫を重ねたりする。

歌唱・器楽

創作

音楽科、芸術科音楽におけるICT活用の例

鑑賞

- ・クラウドに保存された演奏の音源や画像を、自分が視聴したい部分を取り出して繰り返し聴きながら、音楽を形づくっている要素の知覚やその働きの感受を深める。
- ・作品の背景となる文化・歴史、他の芸術との関わりについて考える際に必要な情報をインターネットで検索し、作品に対する理解を深める。
- ・同じ作品を異なる楽器や異なる演奏家による演奏で聴き比べ、音楽表現の共通性や固有性について考えながら、よさや美しさを味わって聴く活動につなげる。

▼どの学習活動での活用が効果的か、活用場面を精選する。

◎生徒の思考を活性化させたり、創意工夫を促進したりする場面で活用する工夫が必要

▼ICT端末を操作することが活動の目的にならないように留意する。

◎指導のねらいを明確にした上で、適切かつ効果的に活用することが重要

知識及び技能

- ・ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解を促す
- ・ 声や楽器の音を客観的に捉え、課題に対する気づきを促す

思考力、 判断力、 表現力等

- ・ 表したい音楽表現について思いや意図をもつことを促す

ICT機器を資質・能力の育成に効果的に活用

中学校・第3学年・音楽科／場面のイメージを表す音楽をつくろう①

育成を目指す資質・能力

音のつながり方の特徴を表したいイメージと関わらせて理解するとともに、課題や条件に沿った音を組み合わせる技能を身に付けながら、まとまりのある創作表現を創意工夫し、創作に親しむ。

ICT活用のポイント

- ・色分けされた音の配列を手がかりに、音の連ね方の違いによる特質や雰囲気の変化を捉える。
- ・つくった音楽を聴きながら、イメージした音楽になっているかを実際の音で確認する。
- ・ペアやグループで発表し合い、感想やアドバイスを参考に修正したり工夫を重ねたりする。
- ・修正や工夫の前後を比較して、その効果を確認する。

事例の概要

つくりたい音楽のイメージをもつ

音の連ね方を様々に試す

ペアやグループで発表し合う

修正したり工夫を重ねたりする

- ①家庭科の授業で作成した紙芝居をもとに、音楽をつける場面を選択し、どのような音楽をつくりたいかイメージをもつ。
- ②音楽制作ソフトを用いて、イメージに合った旋律をつくる。
 - ・色分けされた音の配列を手がかりに、音の連ね方を様々に試す。
 - ・つくった音楽を保存し、それを再生して、特質や雰囲気を感じ取る。
- ③つくった音楽をペアやグループで発表し合う。
 - ・互いの作品のよいところやさらに工夫ができそうなところを伝え合う。
- ④友達の感想やアドバイスを参考に、修正したり工夫を重ねたりして、よりよい作品へと仕上げていく。

A表現(3)創作 音楽制作ソフトを活用

中学校・第3学年・音楽科／場面のイメージを表す音楽をつくろう②

【事例におけるICT活用の場面①】



色分けされた音の配列を手がかりに、音の連ね方を様々に試す場面

- ◎ICT端末を活用することによって…
 - ◆楽譜に書いて記録する必要がないため、即興的に音の連ね方を試す時間を多く確保できる。
 - ◆つくった音楽を保存し、それを再生することによって、つくった音楽をその場で音で確認することができる。

【事例におけるICT活用の場面②】



ペアやグループでつくった音楽を発表し合い、感想やアドバイスを伝え合う場面

- ◎ICT端末を活用することによって…
 - ◆つくった音楽を発表する際に、演奏の練習をする必要がないため、創作表現を創意工夫することに集中できる。
 - ◆感想やアドバイスを参考に、修正したり工夫を重ねたりすることが比較的容易にできる。
 - ◆修正や工夫の前後を比較して、その効果を確認することができる。